



特定非営利活動法人

HANDS

Health and Development Service

HANDSは保健医療の仕組みづくりと人づくりを通して
国際協力に取り組むNPOです

2005年度事業報告書
2006年9月

はじめに

2000年1月に活動を始めた特定非営利活動法人HANDS(Health and Development Service) は、皆様方のご支援をいただき、おかげさまで設立から6年目を迎えました。HANDSはこれまで、途上国の人びとが主役となり自らの健康を守ることでできる仕組みづくりと人づくりをめざしてきました。そして、ケニアとブラジルの現場では、徐々にですが、しかし確実に、地元の人材が育ってきています。アマゾンの大河に散在する小さな集落をひとつひとつ10日間もかけて船で巡り、地元のコミュニティ・ヘルス・ワーカーを指導しているのは、ブラジル人のスタッフです。また、ケニア西部の農村部にある保健センターの入り口の柵を自分たちの発意で修理したのは、健康に関心をもつようになった地元の住民でした。

この1年は、HANDSにとって大きな転換期でした。新しいスタッフも多くなってきています。現場からの息吹を感じながら、現行のプロジェクトの質を高めるとともに、国際機関や国内外のNPO/NGO、大学や研究機関との協働を積極的にすすめていきたいと考えています。また、広報活動にもより一層の努力を行い、多くの方々とHANDSの活動を共有していきたいと切に願っています。今後も、忌憚ないご意見やご助言をいただきたく、何とぞよろしくお願い申し上げます。

HANDS代表理事 中村 安秀

保健医療システムの開発と実践

HANDSは、各国のNGO、政府および国際機関と協調して、環境や文化に配慮しつつそれぞれの国や地域の保健医療の仕組みづくりと人づくりを支援しています。これまでアジア・アフリカ・中南米などにおいて、プロジェクト実施、コンサルティング、調査研究などの活動を行ってきました。

現在は、ケニア西部とブラジルのアマゾン地域で地域保健・医療向上プロジェクトを実施し、ザンビアでの国際協力機構（JICA）のプロジェクトに短期専門家を派遣しています。

ケニア西部地域保健医療サービス向上プロジェクト

国際協力機構（JICA）提案型技術協力プロジェクト（PROTECO）

2005年3月～2008年3月

HANDSは2005年3月からケニア国西部地域にあるリフトバレー州ケリチョー県とニャンザ州キシイ県において、保健センターやコミュニティでの妊産婦ケアの改善を目標とした活動を実施しています。



ケニア地図（活動地域）

プロジェクトの背景

日本をはじめとする先進国での妊産婦死亡はごく稀ですが、ケニアでは10万件のお産に対し1,000人も妊産婦の命が失われています。この高い死亡率の背景にはさまざまな要因が関与しています。妊産婦自身や伝統的産婆の理解不足における危険兆候の見逃しや、医療機関への搬送システムに不備があるために適切なケアを受けるまでに時間がかかること、また保健センターの不十分な施設環境と医療者の管理能力の乏しさから、必要な時に適切なケアが提供されないこと、などがあげられます。これらの問題を解決するためには、キシイ県とケリチョー県の文化的背景や特徴を考慮した包括的な介入が必要になります。

プロジェクトの目的

妊産婦ケア研修

2006年2月にケリチョー、キシイの各県において5日間にわたる妊産婦ケア研修を実施しました。このうち前半の2.5日はコミュニティ住民と保健センタースタッフ合同の研修を実施し、参加者は保健センターでの患者の対応やコミュニティでの妊産婦ケアの向上に関して、ロールプレイ等を通じて学びました。この研修を通じ、保健センターでの出産とケアに対する住民の理解が深まり、また保健センタースタッフにとっても住民のニーズに関する理解が深まる良い機会となりました。研修の後半には妊産婦ケアにあたるスタッフの能力向上をめざして、スタッフを対象とした助産介助に関する専門知識を高めるための講義、及び実習を行いました。今後もフォローアップとしてこのような住民参加型の研修を実施して行く予定です。



安全な出産に向けて妊婦健診を行うスタッフ

保健センター改修

2005年の調査から対象地域におけるいくつかの保健センターは「壁や天井に穴が開いている」、「夜間の出産時にスタッフや妊婦の安全を保護するフェンスがない」などの問題をかかえ、安全で快適に出産ができる環境ではないことが分かりました。そのため、キシイ県の6施設とケリチョー県の4施設において部分的改修を支援しました。改修にあたりコミュニティ住民が「保健センターは自分達の施設である」という自覚を高めることを目指して、改修中はコミュニティ住民によるモニタリングを実施する、という仕組みを作りました。コミュニティ住民は改修工事中、頻繁に保健センターを訪問し、積極的に改修活動に参加しました。この改修により、数か所の保健センターでは産科棟を開設し、分娩サービスを提供できるようになりました。

またコミュニティ住民はモニタリングという重要な役割を果たすことにより、改修後のコミュニティ会議では、「モニタリングを通じて、保健従事者ではない自分達もある意味で保健センターの一員である、という意識を持った」といった感想を聞くことができました。

保健センタースタッフの管理能力向上

保健センターにおける医療記録や医薬品などの管理能力向上を目指し、保健センタースタッフおよびDHMT（ディストリクト・ヘルス・マネジメント・チーム）メンバーを対象とした医薬品管理研修を実施しました。この研修を通じて参加者は、医薬品管理にかかわる記録方法の改善や理想的な在庫管理、および5S・1K（整理・整頓・清潔・清掃・躰・改善）、PR（Public Relations, Personal Relations）などを学びました。これにより各保健センターにおいてより適切な医薬品の管理や記録が実施され、ミーティングを朝夕行い、意思疎通の改善、整理清掃への心配りの向上が期待されます。



医薬品を整理・整頓し、自信に満ちたスタッフ

全ての保健センターでの安全なお産を目指して

ケニアでの活動開始から1年半が過ぎ、少しずつ成果が見えてきています。

保健センターの改修工事に主体的に携わった事でコミュニティ住民間の地域保健への関心が高まっています。コミュニティ会議を通じて情報交換をすることによって他地域の保健施設との違いを見出し、住民自ら地域の保健センターの改善に意欲的に着手するようになった地域もあります。さらにプロジェクトのサポートによりHANDS活動地域における14か所の保健施設において資機材が充実し、より良いサービスを提供で

きる状態になりました。また整備された施設で、一人でも多くの女性が安心してお産ができるよう、様々な分野における研修に取り組んでいます。

2006年3月には、夜間でも安全に出産が出来る環境を整えるため、電気の普及がない保健センターに自家発電機を設置しました。地域住民と保健センタースタッフが、継続的に自家発電機を管理していけるよう、十分な研修を実施し、分かりやすいマニュアルを作成しました。発電機を導入して間もなく、その保健センターで発電機の明かりが灯す中、元気な女の子が無事に生まれました。環境が整った中での出産に安心した母親は、感謝の気持ちを込め、生まれたばかりの娘にHANDSスタッフの名前を付けました。



無事に出産を終えて・・・

今後に向けて

HANDS活動地域における保健センターの設備や機材はほぼ整備され、コミュニティにおける妊産婦ケア向上の啓発活動の努力もあって、保健施設におけるお産への関心が高まりつつあります。今後は、地域住民の健康を担う人材の育成や、患者搬送システムなど緊急時の対応強化に努める予定です。人材育成については妊産婦ケア以外にも、保健センターの運営管理、医薬品管理、記録保管など、幅広い内容の研修を盛り込んで活動していきます。

活動地域の文化背景に配慮しながら、ゆっくりではありますが確実に実施されるHANDSプロジェクトに地域住民も強い関心と期待を抱きはじめています。彼らの健康改善と妊産婦ケアの向上を目標に、ケニアと東京のHANDSスタッフ、地域住民や保健センター職員、県保健局、ケニア国保健省、JICAケニア事務所等が力を合わせ、今後も活動をしていきます。

ブラジル アマゾン地域保健強化プログラム

国際協力機構（JICA） 草の根技術協力プロジェクト

2003年10月～2006年3月

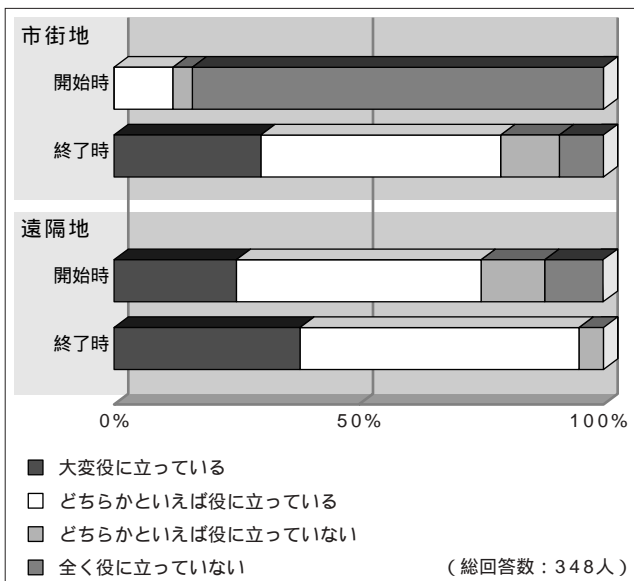
HANDSは2003年10月からブラジル連邦共和国アマゾン州マニコレ市にて、住民の健康向上を目的とした「アマゾン地域保健強化プログラム」を実施しました。コミュニティ・ヘルス・ワーカー（CHW）へのトレーニング、CHWへの支援的スーパーバイズ、地元のNGO「Pastoral da Criança」との合同によるCHWと地域住民対象のトレーニング、CHWとコミュニティ住民の相互理解のための定期集会、学校における生徒向け保健教育などを行ないました。最後の年である2006年2月から3月にかけては、プロジェクトの集大成としてHANDS代表である中村安秀が専門家として現地に入り、終了時評価を実施しました。

2003年のプロジェクト開始当初、HANDSはプロジェクト目標として「マニコレ市のCHWの機能・能力の向上」を掲げ、その目標達成のために次のような指標を設定しました：(1) CHWによる疾病・傷病アセスメント、ケア、教育に関する能力が向上する、(2) CHWが保健情報を適切にマニコレ市保健局に報告できる、(3) CHWが自分が担当するコミュニティの保健ニーズについて把握し、状況を説明できる、(4) CHWがリファールを適切にでき、施設での受け入れが適切に行なわれる、(5) 住民参加が活発になり、CHWの活動基盤が強化される。終了時評価の結果、これら指標のほぼ全てにおいてプロジェクト開始時と比べて明らかな効果が見られました。CHWに満足する住民の割合はそれぞれ市街地で12.0%から79.0%に、遠隔地で74.3%から94.9%に向上しました。これは、HANDSのスタッフたちが行なった研修やスーパーバイズの結果、CHWの保健知識や住民とのコミュニケーション能力が向上したことが寄与していると思われる。



これらの結果より、「マニコレ市のCHWの機能・能力の向上」というプロジェクト目標は市街地においても、遠隔地においても達成されたと判断されました。また、定森徹・現地プロジェクト・マネージャーによるプロジェクト報告会が2006年4月に文京シビックセンターにて開催され、好評を博しました。

今後、HANDSは2006年9月以降、約1年をかけてマニコレ市保健局や遠隔地コミュニティ住民などと協力して、市街地の病院と遠隔地のCHWが緊急時に連絡を取ることを可能にする「遠隔地無線システム構築」プロジェクトを、外務省NGO支援無償資金協力により実施する予定です。同プロジェクトにおいては「コミュニティ住民の組織化・啓発」にも力を入れていきます。その後、これらの活動が、教育現場やコミュニティへの働きかけを中心とした総合的な生活改善プロジェクトへと一層発展することを目指しています。



CHWはあなた(あなたの家族)の健康保持に役立っていますか?



ローカルNGOとの合同トレーニングで子供の体重を量る地元の人々

なお、2005年後半から2006年前半にかけて、アマゾン地域は大変な異常気象に襲われました。2005年下半期の乾季にはまれに見る旱魃となり、マニコレ市でも多くの地域で川や湖の水位が異常に低くなり、魚が干上がって死んでいる光景が見られました。それに続く2006年上半年期の雨季には、通常よりもはるかに水位が



遠隔地での活動を観察する池住義憲専門家

上がり、多くのコミュニティでバナナやキャッサバ芋の畑に大きな損害がでました。その結果、飲料水の質の低下、栄養不足、マラリアの蔓延などの問題が発生しましたが、CHWの働きもあり大きな被害を及ぼすには至りませんでした。



終了時評価に際して住民の声を聞く中村HANDS代表と定森プロジェクトマネージャー

ザンビア保健投資計画策定支援プロジェクト

国際協力機構（JICA）事業

実施期間：2004年7月～2007年3月

2004年7月より、国際協力機構（JICA）はザンビアにおいて全国保健施設センサス（以下、センサス）の実施を支援しています。センサスは「調査対象地域の全保健施設の基礎データ収集と整備、そしてそのデータを用いた保健投資計画策定の技術支援までを含むパッケージ」と定義され、ザンビアにおける保健施設の基礎データの整備と、データに基づいた保健投資計画策定のための計画策定者の能力向上、を目的としています。HANDSからは2004年7月よりスタッフ1名をくり返し派遣し、センサスの準備段階から保健投資計画作成支援の能力向上までを断続的に支援しています。

これまでに全国の第一次レベル以下の保健施設（約1,400施設）の位置や建物の状態、水・電気等の有無、基礎医療器材の状態、保健従事者の配置、基礎サービス供給の有無などの基礎データを収集し、データベースが完成しました。また全国の保健施設の位置を

記した保健施設アトラスが完成間近です。2006年4月には、センサスで集められたデータを人口分布データなどと共に分析しました。その結果、施設から半径5kmの診療圏内に住んでいる人口はザンビア全体の約50%、半径8km以内でも69%である、ということが分かりました。このような結果に加え、各種保健指標、サービス利用状況データ等を県保健局関係者と共に分析し、新たに保健施設の設立やアウトリーチプログラムなどが必要とされている地域や各保健施設の重点課題などを考える活動を現在実施しています。地図を使いながら現状を視覚的に分析する手法は、県保健局関係者に好評を博しています。しかし、重点課題に優先順位をつけ計画に反映していく段階においては、政治的な要因が影響を及ぼすことが多く、今後の課題となっています。



収集データをパソコンに入力する



地図にデータを反映し、優先課題を分析するワークショップ参加者

人材の育成

HANDSは、国際保健医療協力の質の向上をめざして、次世代を担う国内外の専門家の育成に力を注いでいます。

国際協力機構 平成17年度 国別研修

「パレスチナ母子健康手帳の作成と効果的運用」(2006年2月9日～22日)

HANDSは国際協力機構(JICA)の委託を受け、国別研修「パレスチナ母子健康手帳の作成と効果的運用」を実施しました。JICA技術協力プロジェクト「パレスチナ母子保健に焦点を当てたリプロダクティブヘルス向上プロジェクト」の一環で行われた本研修には、パレスチナ保健庁の母子健康手帳タスクフォースから7名が参加しました。研修員は、講義・視察等を通じて、日本の母子保健や母子健康手帳の活用への理解を深め、専門家らの指導・助言を受けながら現地で進めていた母子健康手帳ドラフトを完成させるとともに、母子健康手帳の配布・普及の戦略や手法なども学び、今後の現地でのアクション・プランを策定しました。

本研修の特徴に、パレスチナの母子保健向上を目指して、多くの人々や機関による有機的な協働が実現したことが挙げられます。母子健康手帳の印刷をUNICEF、技術協力をJICAが担当するという国際協調のもと、インドネシアでの母子健康手帳の開発・普及に関わった元JICA専門家らが講師を務め、研修の実務を担当したHANDSと訪問先の埼玉県がインドネシア国別研修の経験を活かし、パレスチナにおける母子健康手帳プログラムの開発に応用するという実践的研修であったといえます。参加した研修員と日本の母子保健関係者との間にも多くの共感と協働が培われました。

こうしたユニークな2週間の研修コース日程を終えた研修員7名は、帰国後、現地の母子健康手帳プログラムで中心的な役割を担い、2006年6月には、パレスチナ版母子健康手帳が印刷され、モデル地域での配布も始まりました。

HANDSは、本研修から得た経験や教訓などを活かして、今後さらに充実した研修事業に取り組んでいきます。



英語版の母子手帳をみるパレスチナからの研修員

セミナー・ワークショップ

年月	タイトル	講師(敬称略)	参加人数
2005年9月	「アマゾンの人びとと生きる」ワークショップ	山田祐彰(東京農工大学) 定森徹(ブラジル事業スタッフ)	30
2005年10月	第5回 MSH/HANDS テクニカル・ワークショップ 「効果的な参加型トレーニングの手法 ～そのデザインと実践～」	Sylvia Vriesendorp (MSH) 藤崎智子 Christine Pilcavage (MSH)	23
2005年10月	第15回 MSH/HANDS テクニカル・セミナー 「活発なグループ・ラーニングのつくりかた」	Sylvia Vriesendorp (MSH) 藤崎智子 Christine Pilcavage (MSH)	34

アドボカシー

HANDSは、海外プロジェクト報告会の実施や学会発表などを通じて、活動から得た貴重な経験と知識を日本の国際保健分野の人々に還元しています。また、関係機関とのネットワークづくりを通じて、NPO/NGOの地位向上のために積極的に発言しています。

報告会・講演

年月	タイトル	発表者(所属)	参加人数
2005年8月	Harvard Project for Asian and International Relations 2005 (HPAIR)	藤崎智子 (HANDS)	約50
2005年9月	草の根技術協力事業 NGO/JICA合同報告会: 「ブラジリアマゾン地域保健強化プロジェクト」	定森徹(ブラジル事業スタッフ)	33
2005年11月	JICAとNGOの協働「ケニア西部地域保健医療サービス向上プロジェクト」報告会	藤田直子、千葉陽子、神谷保彦、野々口順代、島本護(ケニア事業スタッフ)	32
2006年4月	活動報告会「人間中心の国際医療協力を目指して」	白川千尋(国立民族学博物館助教授) 定森徹(ブラジル事業スタッフ) 島本護、千葉陽子 (ともにケニア事業スタッフ)	62

発表

年月	タイトル	学会/研究会名
2005年11月	アフガニスタン保健医療セクター復興支援における保健医療情報システム構築に関する技術支援活動の意義と課題	第20回 日本国際保健医療学会(東京)
	保健施設センサス・背景、意義、およびその手法	
	リプロダクティブヘルス分野の効果的アプローチ 「妊産婦ケア・思春期リプロ」	
2006年5月	「住民を信頼するということ； ブラジリアマゾン地域保健強化プロジェクト」	国立民族学博物館 共同研究会「開発とNGO」(大阪)

ネットワーキング

会合名	日程
第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議(ICAAP)	2005年7月1日～5日(神戸)
Japan Society「The U.S.-Japan Innovators Projects」	2005年8月25日
アフリカに関するNGO-ODA連携促進ワークショップ	2005年9月、10月
外務省 NGO研究会(保健分野)～マラリア予防研究会	2005年9月から随時
GII/IDIに関する外務省/NGO懇談会	2ヵ月毎
NGO・外務省連携推進会議 非公式勉強会	2005年10月
NGO-JICA連携事業検討会(オブザーバー参加)	2006年5月、6月
NGO・外務省定期協議会 全体会議(オブザーバー参加)	2006年5月、6月

広報/取材

年月	内容	掲載先など
2005年8月	HPAIR「Harvard Project for Asian and International Relations 2005」	展示参加
2005年11月	第10回国際保健学生フォーラム(全国大会)	展示参加
2006年1月	ブログ「Go to the people (HANDSスタッフ便り)」開始	http://hands2006.blog46.fc2.com/
2006年3月	活動紹介DVD(日英2か国語版)完成	http://www.hands.or.jp/pages/j/08_publicity.html
2006年5月	パレスチナ母子保健研修	時事通信社を通じ、5/5(金)付の東京新聞、信濃毎日新聞、西日本新聞など計9紙
2006年5月	団体紹介記事	Monthly JICA(06年6月号)
2006年5月	団体紹介記事	Yahoo!ボランティア2006FIFAワールドカップ™ボランティア特集
2006年6月	HANDS代表インタビュー記事	国際開発ジャーナル(06年7月号)

助成を受けた財団一覧

HANDSの活動に対し、2005年度において以下の機関及び団体から助成・支援をいただきました。

ここに深く感謝いたします。

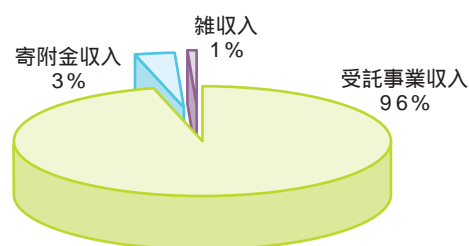
- ・ 外務省
- ・ 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
- ・ 財団法人 国際開発高等教育機構 (FASID)
- ・ The William and Flora Hewlett 財団
- ・ The David and Lucile Packard 財団

2005年度 会計報告

第VI期会計報告 (2005年7月1日～2006年6月30日)

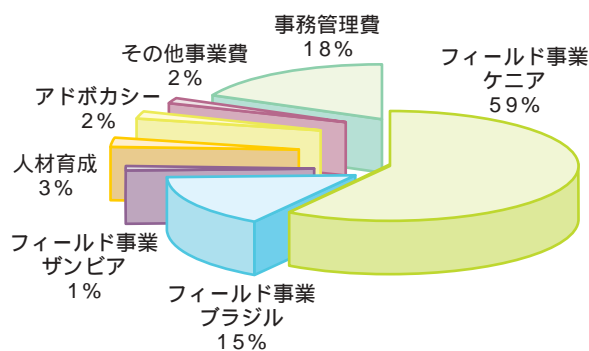
収入の部	千円未満切り捨て表示
受託事業収入	106,901
寄附金収入	3,790
雑収入	874
総収入	111,565

(千円)



支出の部	千円未満切り捨て表示
フィールド事業 ケニア	82,007
フィールド事業 ブラジル	21,517
フィールド事業 ザンビア	1,813
人材育成	3,777
アドボカシー	2,992
その他事業費	2,210
事務管理費	24,729
総支出	139,045

(千円)



特定非営利活動法人
HANDS(Health and Development Service)

〒113-0033
東京都文京区本郷3-20-7 山の手ビル2F
TEL 03-5805-8565 FAX 03-5805-8667
Email info@hands.or.jp
URL <http://www.hands.or.jp/>
Blog <http://hands2006.blog46.fc2.com/>